

# エコへるす



〇〇●●長野県環境保全研究所ニュース 平成22年(2010年)5月25日発行●●〇〇  
安茂里庁舎 〒380-0944 長野市安茂里米村1978 TEL.026-227-0354 FAX.026-224-3415  
飯綱庁舎 〒381-0075 長野市北郷2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929  
<http://www.pref.nagano.lg.jp/xseikan/khozen> Email: [kanken@pref.nagano.lg.jp](mailto:kanken@pref.nagano.lg.jp)

## 地球温暖化への適応策

地球温暖化の進行にともない、異常気象の頻発、海水面の上昇、生物多様性の喪失や人間への健康被害など、さまざまな影響があらわれると予想されています。このような事態を軽減するため、地球温暖化の主な原因である二酸化炭素など温室効果ガスの排出を減らし、大気中の温室効果ガス濃度の上昇を抑えようと、世界中で多くの対策が行われています。生活の中で無駄な電気を使わないように心がけたり、マイカー通勤を控えたりするような省エネ活動もこの対策の一つです。このような対策は一般的に地球温暖化防止対策として知られていますが、国際的には「緩和策」と呼ばれています。これは、温室効果ガスの排出をすぐに減らしたとしても、その効果が現れるまでに時間的な遅れが出てしまうことから、温暖化の進行速度を緩める(=緩和)対策という意味で用いられています。

緩和策を行ってもある程度温暖化が進んでしまうことは避けられません。そのため、温暖化する気候に社会を適応させて影響を最小限にとどめようという対策が不可欠です。これが「適応策」と呼ばれるものです。これは、日本ではまだあまりなじみのない考え方ですが、温室効果ガスをあまり出していないのに温暖化の影響を受けやすい島嶼国や途上国などでは、以前から主流となっている考え方です。身近な例としては、農作物の品種改良や海面上昇に対する堤防建設などがわかりやすいと思います。

現在、日本では「緩和策」が重点的に進められていますが、「適応策」についても環境省から2008年に報告書が出され、その検討が進みつつあります。

こうした情勢を踏まえて、当研究所でも、長野県の温暖化影響評価とあわせて適応策の研究を今年度から始めることとなりました。しかし、適応策を進めるにあたっては課題もたくさんあります。たとえば、何年後の姿をイメージして適応策を考えるのかという目標設定の問題や、そもそも温暖化現象や影響をどこまで正確にかつ詳細に予測できるのかという予測の確実さに関する問題などです。こうした課題を一つ一つ克服しながら、将来の温暖化する気候に対してどのように適応していくのがよいか、これから考えていきたいと思います。

「適応策」は「緩和策」が確実に実施されていることが前提です。何もせずに温暖化が進行してしまっただけの場合は、適応策を進めても影響を少なく留めることは困難です。これらの対策はまさに車の両輪なのです。

(浜田 崇 [kanken-junkan@pref.nagano.lg.jp](mailto:kanken-junkan@pref.nagano.lg.jp))



りんごは温暖化に対しどう適応させたら良いのでしょうか？

### 目次

最近の話題	1
研究所のさらなる発展をめざして	2
トピックス	
トピックス	3

研究所日記	4
自然ふれあい講座報告	5
2010年研究報告の概要	6・7
今年度の出前講座一覧・お知らせ	8